

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島町港町塩口24
電話2-9772

隠岐の島町の教育活動

隠岐の島町教育委員会が取り組んでいる教育活動の様子を紹介いたします。

【学力向上対策事業】

隠岐の島町では、学力向上対策事業の一環として、指導力向上セミナーを実施しております。今年度、夏休みに行った四つのセミナーを紹介いたします。

一つ目は、筑波大学附属小学校の青山由紀先生による『国語科教材研究セミナー』です。書くことへの抵抗を感じている子供が多い中、『書きたくなる子』を育てていく「しかけ」をたくさん紹介してもらいました。

二つ目は、筑波大学附属小学校の桂聖先生による『授業力向上セミナー』です。「授業とは教師が教えたいことを、子供の学びたいことに変える場である。」「授業のユニバーサルデザインは子供が変わらないと意味がな

い。」という先生の言葉のように、子供一人ひとりを主体とした授業づくりの重要性を学びました。

三つ目は、文部科学省の直山木綿子視学官による『外国語教育講演会』です。授業の中で、子供たちがしっかり考える場面や選択する場面、そしてそれを表現する場面を十分確保すること、また子供同士の思考の場を設けることの重要性を学びました。

四つ目は、桃山学院教育大学の松久眞実教授による『ユニバーサルデザイン研修会』です。松久先生には、特別支援教育の視点に立った学級経営のポイントを分かりやすくお話していただきました。日々現場で奮闘する教員の目線でお話をしていただき、元氣と勇気をいただいた講演となりました。

夏季休業に参加していただいた先生方には大変感謝しております。セミナーでの学

びが二学期からの授業づくりに役立てていただければ幸いです。

今後先生方や学校のニーズに応えられるセミナーにしていきたいと考えています。

(文責 派遣指導主事 仲山)

【わいらの島の子育て 協働プロジェクト】

隠岐の島町では、「わいらの島の子育て協働プロジェクト」と題して、子供たちの社会性や自主性、創造性等の豊かな人間性を涵養するために、地域と学校と家庭が連携・協働して教育を行う体制づくりを進めています。

九月には、四つの中学校区に設置している地域教育協議会の合同会議を文化会館で開催しました。この会には、各小中学校から教頭先生、地域コーディネーター、PTAの代表、各公民館長、公民館運営審議委員の皆さんに参加していただきました。正に、学校と家庭と地域の代表者が一同に会する会なのです。今回の会では、今年度の事業計画を説明し、更に新しい学習指導要領の基本的な理念である「社会に開かれた教育課程」の

実現に向けて理解を深め、考える場を設定しました。

「社会に開かれた教育課程」とは、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む教育課程のことです。つまり、学校と社会がよりよい社会を創るという目標を共有し、その社会を創り出していく子供たちに必要な資質・能力を明らかにしていくことが、これからの教育に求められていきます。また、学校だけでは完結せず、地域と連携・協働していくことも必要と

なっています。各地区の協議会での話し合いでは、短い時間ではありましたが、様々な意見交流がなされました。中でも「地域のために子供がいるのではない。子供のために地域で何ができるかを考えていきたい。」という一言が印象に残りました。隠岐の子供たちのために何ができるか、今後も議論を深めていきたいです。

(文責 派遣社会教育主事 稲葉)

人権感覚を

身に付けるために

六月四日に人権・同和教育主任等研修ならびに進路保障推進協議会がありました。人権教育を通じて育んでいきたい子供たちの資質・能力や、「進路保障」の理念を柱とした人権教育の推進について共通理解できました。その中で、私が特に大切だと感じたのが「人権感覚の育成」です。

家族でテレビを見ている時、私は「嫌だな。」と思う内容があります。それは人をだまし、驚かせることを目的とする、いわゆるドッキリです。結果的にテレビの出演者は笑顔になり、家族も笑って楽しんでいるのですが、私はどうしても「自分だったら嫌だろうな。」と感じて暗い気持ちになります。だから勝手に番組を変え、ちよつともめまします。私が学校での「嫌だな。」と思う具体的な場面を思い出してみると、いじり、落書き、散らかった教室(職員室)、プロレスごっこ、子供や大人の言動などです。自分の感覚だけで行動すると失敗することがありま

した。それは必ずしも同じような感覚・考え方を周囲の人が持っているとは限らないからです。もしくは自分が嫌だと思いうことを伝えていないからです。「自分は○○という理由で、□□が嫌なのだけれど、あなたはどうか感じる？」と問いかけ、周囲の考えも聞き、合意形成し、解決方法を探す。この手順があれば自分も周囲も納得する手立てに進めると、ここ最近分かりました。

少し話はそれますが、今年度はたくさんの研修会に携わりました。一番先生方に満足していただけた内容は「参加者同士の協議の時間」でした。やはり、思いや感覚は伝えあい、共感しあい、互いに磨きあうものであると感じました。(ちなみに一番盛り下がったのは私がずつと話している場面でした。)今までの人権教育の反省点として「知的理解に重点をおきすぎて、人権感覚の育成が十分ではなかった。」ということが挙げられています。人権を守ろうとする意識・意欲・態度を高めるためにも、対話の中で人権感覚を磨いていくことを大切にしていきたいです。

(文責 新谷)